

祇園甲部歌舞練場 耐震改修工事に係る寄付のお願い



1913(大正2)年に建設された京都最古の歌舞練場「祇園甲部歌舞練場」は、春の「都をどり」や秋の「温習會」の会場として、祇園甲部の歴史・文化とともに多くの人々に親しまれてきました。しかし、築100年を超え、老朽化による大規模な耐震改修工事が必要となり、2016年以降休館を余儀なくされています。

耐震改修工事には多額の費用が見込まれ、さらなる財源の確保が必要な状況です。現在、おおきに財団が窓口となり、寄付金を受け付けております。祇園甲部の芸妓・舞妓が磨き上げた伝統伎芸を再び祇園甲部歌舞練場で披露できる日が来るよう、皆さま方の温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

寄付金額 一口 10,000円～ 募集期間 ～2021年11月30日(火)

申込方法 ウェブ申込フォームもしくは申込書 いずれかで申し込み

詳しくはこちらから

●お問い合わせ／(公財)京都伝統伎芸振興財団[おおきに財団] Tel.075-561-3901

プレゼント ギオンコーナー招待券を進呈!

「KYOTO KAGAI」への感想や今後取り上げてほしい花街文化についてのご意見をお送りください。抽選でペア10組(20名)様にギオンコーナー招待券を進呈します!

【応募方法】はがきかメールに郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、下記宛先までお送りください。[締切:2020年4月20日(月)必着]

※当選者の発表は招待券の発送をもって代えさせていただきます。
個人情報はおおきに財団が管理し、プレゼントの発送にのみ使用します。

応募先 はがき／〒605-0074 京都市東山区四条花見小路下ル弥栄会館内
おおきに財団「KYOTO KAGAI」係
メール／ookinizaidan@juno.ocn.ne.jp

(公財)京都伝統伎芸振興財団[おおきに財団]

当財団は、京都の五花街が誇る伝統文化や伎芸をより多くの人に知ってもらい、保存・継承するため、五花街合同公演はじめさまざまな事業を行っています。

【主な事業】ギオンコーナー運営／京都五花街合同公演「都の賑い」／五花街の夕べ～京のおもてなしに浸る宴～／祇園小唄祭／友の会運営／芸舞妓派遣・舞妓募集

華やぐ京都、春の公演

◆第68回 北野をどり

第一部 舞踊劇「時代の旅人」 第二部 純舞踊「徒然なるままに」
フィナーレ 上七軒夜曲

と き／3月20日(金・祝)～4月2日(木) 14時・16時30分(2回公演)

観覧料／茶券付観覧券5,500円、観覧券5,000円

会 場／上七軒歌舞練場

●上七軒歌舞会 Tel.075-461-0148(代) <http://www.maiko3.com/>

◆令和2年南座公演 都をどり 「技競令和花模様」(全八景)

と き／4月1日(水)～4月27日(月) 12時30分・14時30分・16時30分(3回公演)
※4月1日(水)については2回目、3回目の公演のみ

観覧料／一等観覧券5,500円、二等観覧券4,000円 ※お茶席はございません。

会 場／南座

●祇園甲部歌舞会 Tel.075-541-3391(代) <http://www.miyako-odori.jp/>

◆第71回 京おどり 「花競夢道成寺」(全九景)

と き／4月1日(水)～4月16日(木) 12時30分・14時30分・16時30分(3回公演)
観覧料／茶券付一等5,500円、一等4,900円、茶券付二等3,000円、二等2,400円

会 場／宮川町歌舞練場

●宮川町歌舞会 Tel.075-561-1151(代) <http://www.miyagawacho.jp/kyoodor.html>

◆第183回 鴨川をどり

第一「春の風 恋のいたづら」 第二「京都 和歌ごよみ」

と き／5月1日(金)～5月24日(日) 12時30分・14時20分・16時10分(3回公演)
観覧料／茶券付特別席5,500円、特別席4,900円、普通席2,500円

会 場／先斗町歌舞練場

●先斗町歌舞会 Tel.075-221-2025(代) <https://www.kamogawa-odori.com/>

「新型コロナウイルス」の影響を踏まえ、中止、または延期する場合があります。

季節の彩りを舞う

一年を通して、京都各所で行われる行事に華を添えるのが芸妓・舞妓たちの「舞」。日々「お座敷」を務める一方で、研さんを重ねてきた彼女たちの技の集大成を目にする機会は意外に少なくありません。各花街主催で春・秋に開催される「を(お)どり」などの公演はもちろんのこと、八坂神社や平安神社、北野天満宮をはじめとした神社の祭事では、氏子地域にある花街の芸妓・舞妓たちが、境内で奉納舞を披露し、座敷や舞台とは異なる趣を持って人々を楽しませていきます。

2月の「節分」には、八坂神社や北野天満宮で豆まきと舞を奉納する姿がみられます。平安神宮の年中行事で最も重要な祭儀である4月の「例祭」の翌日に行われる「翌日祭神賑行事」でも、舞妓の舞を

はじめ、神楽、箏曲などの伝統芸能が奉納されます。7月の1カ月間行われる日本三大祭の一つ・祇園祭では、八坂神社の氏子地域にある祇園甲部、宮川町、先斗町、祇園東の芸妓・舞妓が彩り鮮やかな「花傘巡行」に参加するほか、華麗な奉納舞が披露されるの見どころです。

京都の伝統的な祭事では、舞の奉納のみならず、祭りを彩る芸妓・舞妓たちに目を引かれる場面もあります。京都三大祭の一つ「時代祭」には、芸妓・舞妓たちが平安時代や中世の女性の装束を身に着けて行列に供奉します。10月の北野天満宮「すいき祭」では、上七軒の芸妓・舞妓たちがずらりと並んで、神輿を出迎える姿が見られます。

京都の伝統行事と花街の結び付きは、花街文化を語る上で欠かせない要素であり、芸妓・舞妓と「舞」は、京都の祭事にとって実に大きな存在なのです。



Dancing throughout the Seasons

“Mai,” or an elegant dance performed at various occasions in Kyoto by Geiko and Maiko is a delight. Ozashiki is the main place where you can meet Geiko and Maiko, however, there are other chances where the audience can enjoy watching the fascinating dance skills of Geiko and Maiko which they achieve as a result of their daily hard trainings. Dance shows held every spring and autumn in each Kagai are such occasions. Rituals and ceremonies held at shrines, such as Yasaka Shrine, Heian Jingu Shrine and Kitano Tenmangu Shrine, often include dances by Geiko and Maiko from the local Kagai where they dedicate their beautiful dance to the deities. These dances held at shrines have a different style and atmosphere from those performed in Ozashiki.

During the Setsubun ritual in February, Geiko and Maiko join the bean-throwing ritual and perform a dance for the deity at Yasaka Shrine and Kitano Tenmangu Shrine. April is the month in which Heian Jingu Shrine's most important rituals of the year, Rei-sai, is held. After the Rei-sai, there is a ceremony in which Maiko dance as well as traditional Japanese performing art forms, such as Kagura and Japanese harp music, as an offering to the deity. July is the month of the Gion Festival. Gion Festival is one of the greatest festivals of Japan dedicated to the deity of Yasaka Shrine and it continues for a month. As the four Kagai, Gion Kobu, Miyagawacho, Pontocho and Gion Higashi, are the parishioner's area of Yasaka Shrine, Geiko and Maiko join the Hanagasa Procession and perform a dance for the deity.

Geiko and Maiko often take part in traditional rituals and events in Kyoto. Not only during their elegant dance performances for the deity but also their splendid presence attracts people's eyes and hearts. Geiko and Maiko dressed in the historical costumes of the Heian period or medieval age join the procession of Jidai Festival, one of the three largest festivals of Kyoto. At the Zuiki Festival held at Kitano Tenmangu Shrine in October, all Geiko and Maiko of Kamishichiken stand outside and welcome the Mikoshi portable shrine carried around the neighborhood.

The tie between traditional events of Kyoto and Kagai is an indispensable element when we talk about the culture of Kagai. “Mai” dance performed by Geiko and Maiko are a quintessential part of rituals and events in Kyoto.

花街はんなり香話 06

京都 花街